

高崎市地域福祉通信

第 11 号

平成20年11月7日発行

「地域福祉計画・活動計画素案」が承認されました

第11回会議で地域福祉(活動)計画素案が承認され、市民会議で予定していた業務は全て終了いたしました。委員の皆様におかれましては、約1年の長期にわたりご協力いただき、まことにありがとうございました。

第11回地域福祉市民会議の内容

第11回市民会議は、10月21日(火)午後1時30分から3時頃まで、市役所20階研修室において開催され、38人の市民会議委員にご出席いただきました。

今回の会議では、9月29日の座長・副座長会議で最終調整を行った地域福祉(活動)計画素案について、市民会議委員から事前に寄せられた意見も含めて事務局が説明を行いました。その後、委員全体で審議を行い、計画素案が承認されました。

閉会にあたり、松本委員長から「このような市民参加の会議で、約1年という長期にわたり毎回2時間から2時間半、これだけ熱心に審議・検討を行った会議は無いのではないかと。平成21年度から実際の活動に入るが、この計画を絵にかいた餅にしないために、しっかり取り組んでいかねばならない」とあいさつをいただきました。

次に、村山副委員長から「実際に地区に持ち返って、どのように計画を周知し、推進していくかが問題である。特に、福祉意識の醸成が重要である。そのために、若者との意見交換会が行えたらよいと考えている」とあいさつをいただきました。



(松本委員長のあいさつ)



(大宮先生のコメント)

今後の予定

今後開催される会議としては、11月17日の第6回座長・副座長会議と11月25日の第3回地域福祉(活動)計画策定委員会が予定されています。各分科会の座長・副座長さんや策定委員の皆様の審議を経て、最終的な地域福祉(活動)計画素案をまとめます。

※ アドバイザーの総括コメント

大宮先生のコメント

- ・ 地域福祉(活動)計画策定にあたり、地域福祉市民会議の運営等で大変な時間と労力をかけたことは、行政がしっかり現場の意見を聞いて計画づくりを行っていくという意思表示といえる。
- ・ 住民の側としても、地域福祉の推進については行政まかせでなく、担い手として積極的に活動に参加していく必要がある。
- ・ この会議に参加した皆さんが地域の担い手になることで、初めてこの計画が有効になるのではないか。
- ・ 大学としては、高崎市内のある地域でうまく行っている事例を基にモデルを作り、それを他の地域に提供する等のお手伝いができるのではないかと考えている。

熊澤先生のコメント

- ・ 約1年間4分科会で話し合ってきたが、委員同士又は市・社協担当者と委員の間で共有できたこと、できなかったことを確認した方がよいのではないか。
- ・ 小地域単位の福祉の推進が地域福祉活動計画で大きく取り上げられているので、すべての領域でその意図が反映されればよいと考えている。
- ・ 計画の評価についても検討いただければと思う。